

会 議 録

会議の名称	令和 8 年度第 1 回飯塚市障がい者施策推進協議会
開催日時	令和 8 年 7 月 23 日 午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで
開催場所	飯塚市役所 本庁 1 階 多目的ホール
出席委員	合澤委員、大津委員、甲斐委員、川浦委員、高橋委員、田才委員、豊永委員、西田委員、花元委員、藤井委員、藤原委員、森嶋委員、山下委員、渡邊委員
欠席委員	淵上委員
事務局職員	福祉部次長（中嶋）、社会・障がい者福祉課長（大庭）、同課長補佐（野見山）、同障がい者自立支援係長（西）、同・係員（永田）、同障がい者福祉係長（花村）、同・係員（村田）
会議内容	1. 委員紹介 任期：令和 8 年 4 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日 2. 会長、副会長の選出 委員の互選により、会長に渡邊委員、副会長に豊永委員を選出した。 3. 第 8 期飯塚市障がい福祉計画及び第 4 期飯塚市障がい児福祉計画策定に関する諮問 福祉部次長が、第 8 期飯塚市障がい福祉計画及び第 4 期飯塚市障がい児福祉計画に関する諮問書を渡邊会長へ渡した。 4. 第 8 期飯塚市障がい者計画及び第 4 期飯塚市障がい児福祉計画の策定について [事務局説明] 資料 1、2、3、4、5 に基づき説明する。 [委員からの意見、質疑応答] (委員) 意見：医療的ケア児を育てる当事者として、家の中で孤立した育児をしている家庭がたくさんあると思う。自分自身の子どもに大きな障がいがあると分かってから育児をしていく中で、地域に医療的ケアや大きな障がいがあるお子さんや家族が集える場所があればという思いで、団体を立ち上げ、たくさんの友人ができた。こういった団体がずっと続いていくためには、行政や病院、本協議会の委員の方々の意見が一緒になり、横のつなが

り、縦のつながりも全部一緒になり、飯塚市で障がい育児ができてよかったと思えるような街になってほしい。

目には見えていないが、今もまだ家で泣いているお母さん達、病院との行き来しかできていない家庭があるので、そういった方たちが生きやすい街になったらいいと思っている。

(委員)

意見：何でも相談事業を始めた。子どもも保護者も、行く場所や相談する場所がない。子どもと保護者の居場所づくり事業をスタートしたばかりだが、すでに時々相談に来られている。市役所はすごく入りやすい場所ではあるが、行きやすい場所ではない。例えば、市役所の入口の玄関ホールの横にキッズパークのような、子どもが何かできるところや、お母さんたちの心が癒されるような場所が各交流センターなどにあれば、随分違うと思う。こういうことは一つずつ、コツコツとやっていくしかないと思っている。

(委員)

質問：精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの件で、ご意見をお聞きしたいので、質問させてもらいたい。

精神科に長期間入院している人を少しでも減らして、地域でみていく体制をつくっていくというのがある。透析をしている 65 歳以上精神疾患の方が施設に入所したい時、本当は障がいサービスでグループホームに入所したくても、65 歳を超えていると介護保険が優先されると行政から言われ、介護保険が非該当にならないと入所ができない。介護保険施設では、精神疾患、統合失調症の方の対応がなかなか難しい。トラブルを起こして病院に戻ってくる。厚生労働省の方に質問したことがあるが、国としては認めており、行政単位によると言われた。飯塚市では、いまだに介護保険を優先している状況であり、その点が変わるだけでも、退院できる方は結構いるというのが現状であって、もしこの会議での改定で何かできるのであれば、対応していただけると非常に助かる。

(事務局)

回答：ご意見いただいた部分について、できるだけ地域にいていただくよう国も進めているはずなので、それをしっかりこちらでも対応させていただけるよう協議を進めていきたい。

5. その他

○障がい福祉サービスおよび障がい児通所支援事業所の指定に係る意見書の発行について

[事務局説明]

令和5年度協議会資料を参考資料として配布し、障がい福祉サービスおよび障がい児通所支援事業所の指定と飯塚市の現状、意見書の発行について説明。

[委員からの意見、質疑応答]

(委員)

質問：障がい児通所支援施設等の見込み量の確保について、今実際、自分の子どもが児童デイサービスを利用している。発達特性の子どもが行くデイサービスは飯塚市には選ぶくらいたくさんあるが、医療的ケア児、重心児の子どもたちのデイサービスは本当に数限られている。必要とするサービスが、必要とする方に実際あるのか、利用者の意見としてある。

事業所はたくさんあるが、視察など毎回行われているのか。

(事務局)

回答：非常に的確な意見をいただいた。実は私どもも、施設を見回ってはいない。ここに充てられる公費が非常に高いこともあり、今おっしゃったような、施設の中で何があるのか、どういう療育が行われているのかというのは、行政がきっちと目を配って、適切な指導をすることが必要だと考える。市が行う役割、県が行う役割がそれぞれあるため、連携をまず考えながら、きちんとした対応を行っていききたい。

質問いただいた中で、基本的にはやはり療育で訓練をして、巣立っていったところがあるべき姿ではないか。実際それがきちんとされているのかについては、全施設見回ってないし、指導もきちんとできていないと考えられるため、ご意見いただく中で、やはり進めていきたい。

(委員)

意見：私の法人でも重度心身障がい児の事業所があるが、定員オーバーしている日がほとんどで、飯塚市以外のお子さんも来られている。

年齢が上がった時、将来的には施設入所も考えながら、家族の相談にのっているが、入所施設を持っていない事業所が多くある。そういった事業所は増えていって、今はストップがかかっているのが飯塚市の今の現状ではないかと思う。

先ほど事業所の見回りをしているのかとの質問があったが、我々の中でも問題視をしており、自分達でチェックしていこうと連絡協議会を立ち上げている。事業所同士できちんとした運営がなされているか、地域の中で連携を取り合っているか確認する体制を作り、子ども部会において取組みを行っている。

またショートステイ事業も行っているが、障がい児のショートステイ利用がかなり増えてきている。聞くとあまりないと言われる。特に医療的ケ

アの子は預けるところがなくて困っていると聞くので、きちんと数が足りるよう整備する必要がある。

もう1点。拠点づくりが大事だと考えている。大規模災害が起こった時、どこに避難するか、どこにどのような方が住んでいて、どのような支援が必要か、実はあまり把握されていない。そういったネットワークも作っておいて、どのような障がい特性をもっている方がいるのかを整理して、地域づくり、拠点づくりをしておく、万が一のときにスムーズだ。本当にすぐには動けないので、訓練を含めて、そういった活動をしていくことでネットワークもできていくのではないかな。子ども部会で比較検討しており、なかなか実行までいかないが、頑張っけて進めていきたい。

○その他意見

(委員)

意見：親御さんは、障がいを抱えたお子さんのことを、まわりにどれくらい伝えることができるか。前は、障がいがあっても目立たないようにしていたが、ヘルプマークをつけるのと同じように、どこが悪いかに逆に目立つようにした方が、まわりの方も理解してくれる。人それぞれ障がいは違うし、お互いが隠すことなく、伝え合っけて理解し、付き合っけていかないといけない。

大規模災害に関しては、避難とその先。目が見えない方は、避難場所までは避難できても、避難後、トイレ、食事とか誘導が必要。耳が聞こえない方は、教えてもらわないと放送されても理解ができない。そういう所を準備していかないといけない。どこまでできるか、昔に比べれば少しずつよくなっけてきているので、頑張っけてやっけていただきたい。

(委員)

意見：災害の話ですと、私たちの団体は、熊本地震があつたときに避難者名簿を作り、災害が起つた時に合理的な配慮をお願いしたいと、市役所に提出し相談した。私自身被災して、ボランティアもして思うのは、弱者が一番困る。みんな自分のことを先にして、次に知人に手を差し出して、最後に障がい者に手を差し出す。だから、手を差し出す中核的な人間がいなないといけない。

私たち、障がいを持っている団体と家族としては、まず何かあつた時にどうするかきちんとして決める。そして訓練、模擬訓練をやっけて、その結果を基に外部と話をしていかないといけないと思っけている。

(委員)

意見：災害とか防災の話があつたが、私の娘は、心臓が悪くて呼吸器などを使っけている。もし災害となつたら、呼吸器一式とか吸引機とか、酸素ボンベも1本3キロで、1日使うと3、4本必要。医療的ケア児の機械や医療

	機器はすごく重たいものがたくさんある。災害の時に、姉と下の障がいのある子2人と医療機器を持って避難っていうと、すごく不安。まわりのお母さんたちも、実際問題、災害時にも避難できない、しないと言っている。結局、そういう不安を抱えている家族が多かったので、市役所で防災課や障がい福祉課で、障がい家族の私たちの生活やどんな医療機器を使っているのか、知ってもらう機会を持った。その上で、実際に避難訓練をやってみることになり、3家庭がモデルとして実際に避難訓練を11月に実施するよう今進めている。まず地域の方に知ってもらわないといけない。私は、出産して1年くらいは引きこもって外出していなかった。だから地域の方でさえ、我が家に重度の医療的ケア児がいることを知らない。知られていないからこの間、地域の方や相談員さんなどをたくさん呼んで、私たちの生活について伝えた。そうしたら、地域の方も、そうね、何かあれば助けるよって言ってくれた。自分の命を自分で守るためには、やはり色々な人に我が子のことを知ってもらうことが大事だと思う。 私は今、外に出るようになったから、こういうことで困っていますって当事者家族としてたくさん伝えて、避難訓練も他の医療的ケア児さんのモデルとなって、何か進めていけたらいいと思う。 (委員) 意見：今の話で、まわりに知ってもらうことは、1番大事なことです。孤立してしまえば、知ってもらうチャンスがない。ただ、精神疾患というのは特に、大事なことはわかっているが、人に言いたくない。知られたくない。心の病気ではなく、まだまだ異常者として捉えられている部分がある。それで、公の場というか、人に話せない人、引きこもりの人がたくさんいる。10年前とか以前に比べると、最近は相談に来る人も増えていっている。だが、まだまだ会には入りたくない。会に入っていることを知られたくないという思いで、ただただ相談に行きたい、誰かに相談すれば気が楽になるからということである方は多い。会では、そういった隠れた人たちを会に入ってもらい、活動を広げていこうという思いで今、頑張っているところ。皆さんからも精神疾患は異常者ではないと、何かチャンスがあれば、広めていただきたい。 ～閉会～
会議資料	1. 会議次第 2. 【資料1】計画策定の概要について 【資料2】関係計画期間のまとめ 【資料3】策定スケジュール 【資料4】障がい福祉計画の構成 【資料5】計画の素案

	【参考資料】 令和 5 年度協議会資料		
公開・非公開 の別	1 公開	2 一部公開	3 非公開 (傍聴者 1 人)
その他			